

中西 健夫（なかにし・たけお）先生

株式会社ディスクガレージ 代表取締役社長
一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 副会長

■略歴:

- 1972年 京都にてバンド活動開始
- 1979年 バンドでメジャーデビュー(全く売れず1年で解散)
- 1980年 株式会社 ディスクガレージにて
アルバイトを始める
- 1981年 株式会社 ディスクガレージの社員となる
- 1990年4月 株式会社 ディスクガレージ 取締役専務 就任
- 1993年4月 株式会社 ディスクガレージ 代表取締役副社長 就任
- 1997年4月 株式会社 ディスクガレージ 代表取締役社長 就任



- その他兼任:
- ・一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会 副会長
 - ・特定非営利活動法人 音楽文化振興委員会 理事長(『MUSIC DAY』運営団体)
 - ・WHDエンタテインメント株式会社 代表取締役CSO
 - ・ポイントグリーン推進環境会議事務局 理事

現在に至る

- 参考ホームページ:
- ・「一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会」<http://www.acpc.or.jp/>
 - ・「特定非営利活動法人 音楽文化振興委員会」<http://music-culture.org/>
 - ・「ポイントグリーン推進環境会議」<http://www.pointgreen.jp/>

《講義概要》

株式会社ディスクガレージの代表取締役社長として、数々のコンサートやイベント等の企画・制作・運営を手掛ける中西健夫氏が、エンタテインメントの力について講義を行った。

講義では、1ヶ月前の3月11日に起きた東北地方太平洋沖地震による音楽産業への様々な影響について説明し、アーティストを始めとした音楽産業に関わる方々の思いや活動の現状をリアルタイムに伝えた。音楽の力によって人々に笑顔や喜びを与えるために、エンタテインメントが今一度団結し、新たに行動していくことが重要であると言及した。

さらに、日本と中国・韓国の音楽市場を比較しながら今後の音楽ビジネスのあり方について説明し、音楽産業の海外進出が重要な課題であることを示した。加えて、日本経済が危機的状況である現状を指摘し、音楽産業や日本経済を活性化させることのできる人材が求められていることや人間力を養うことの重要性を訴えた。

震災を通じた今後のエンタテインメントのあり方とその可能性について示す講義となった。

《受講生の感想》

●音楽が人を元気づける力はあると思うし、アーティストのライブを聞いて頑張ろうって思えることも確かだと思うので、自粛せずにたくさんライブなどを行ってほしい。それを世界に向けて発信し、日本は元気だよっていうことを伝えてほしい。これからの日本の音楽産業のあり方について考えさせられた。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●今頑張らなければならないのは被災地の人だけではなく、自分たちもだと感じ、これから日本が生き残るためには自分たちが支えていかなければならないと思った。そこでのエンタテインメントの役割の重要性、日本文化の良いところをエンタテインメントを通じて世界へ発信することができるのだと感じた。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●災害時に私たちがすべきこととして「いつも通りの生活を送ること」と挙げられていた。震災前と同じように普通に音楽を聴いたりライブに行ったりすることが大切だと思った。また、今求められているのは「人間力」という言葉が一番印象的だった。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●音楽の歴史が音量、技術の歴史であること、何故新しい音楽が出てこないか、などなるほどと思う事が多く非常に参考になったと思います。社会で何かを作り出す上で、必要な視点、考え、構え方がわかった気がするので、これからの進路を考える時に参考にしたいと思います。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●東北地方の心配をみんなしていますが、視野を広げてみると「日本」自体の存在が危ういということまでは気がつきませんでした。こんな時こそポジティブに生きなければならないと思います。危機感を持ちつつ、私に出来ること（消費を行うなど）をどんどんしていきたいと思います。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●今回特に印象に残ったことは、日本のコンテンツ市場が他国と比べて閉鎖的であり、非常に深刻な状況であるということでした。日本国内のみの市場規模の拡大は限界があり、世界に向けて発信する必要があると考えます。

立命館大学・映像学部・3回生

